



次期整備方針策定にあたって 52号線の優先整備路線見直しを求める



都知事宛要請署名 第2次分1,136筆を提出 (累計3,879筆)

東京都が2026年3月を目途に次期道路整備方針の策定を進める中、10月28日、52号線の会幹事および沿線住民代表5名が東京都庁を訪れ、小池都知事宛の要請署名第2次分1,136筆（第1次分との累計3,879筆）を提出しました。

代表して中原甫記幹事が、都知事代理として対応した知事秘書課・北代崇課長に署名を手交し、要請の趣旨を説明しました（写真①）。

中原幹事は、「第4次整備方針で優先整備路線に選定されてから10年が経過したが、現状では道路ネットワーク形成の見通しが立たず、整備の必要性や緊急性も認められない。人口減少と車離れが進む中、将来的にも52号線の整備は不要である」と述べ、次期整備方針において優先整備路線からの除外を強く求めました。

「本日の趣旨をぜひ都知事にお伝えください」と訴えるとともに、参加者からもそれぞれの立場から切実な声が寄せられました。

これに対し北代課長は、「ご説明いただいた内容は、知事および所管部署に確実に伝えたい」と応じました。

署名提出後、一行は都議会議員控室を訪問し、世田谷区選出の都議8名に結果を報告。新たに結成された国民民主党都議団の坂本まさし幹事長とは懇談の場を持ち、協力を要請しました（写真②）。

坂本都議からは「所管に計画の状況を確認し、現地も訪問して対応したい」との前向きな返答がありました。

また、区議会の全会派にも署名行動の結果を報告し、引き続きの協力を要請しました。



写真①



写真②

沿線住民に共感広がる署名宣伝活動

署名提出に向けて、10月5日には千歳船橋駅、19日には経堂駅北口にて署名宣伝活動を実施しました（写真④⑤⑥）。

「計画見直しを」と掲げた横断幕とハンドマイクによる呼びかけに、多くの通行人が足を止め、耳を傾けてくださいました。横断幕のスローガンを立ち止まって読む方の姿も目立ちました。両日の行動ではチラシを70枚配布し、署名は合計45筆に達しました。

また、沿線住民や地権者を訪問し、チラシと署名用紙を配布して対話を重ねた結果、多くの方から次々と署名が寄せられました。

中学生から高齢者まで、世代を超えて署名に応じ



写真③=5月経堂駅

てくださった方々の声は印象的で、住民の共感の広がりを実感する機会となりました。



写真④



写真⑤



写真⑥

東京都、整備路線の必要性を検証中



東京都は2026年3月の次期道路整備方針策定に向け、昨年10月から検討を進めており、今年8月には「中間まとめ」を公表し、都民からの意見募集を行いました（詳細は都市整備局HP参照）。

現在、その結果は未公表ですが、10月からは未着手路線の検証が始まっています。

都市整備局HPによれば、9月17日の都検討会、同日の区市合同検討会、10月8日の専門アドバイザー委員会、10月10日の都・区市町村策定検討会な

どが連続的に開催され、整備路線の検証や優先整備路線の選定作業が進められています。

今後もこれらの検討内容の情報開示を求めるとともに、計画見直しを求める運動をさらに強化し、東京都への働きかけを続けていきましょう。

12月上旬に第3次署名提出行動

52号線の会では、12月上旬に第3次署名提出行動を予定しており、それに向けて署名運動と宣伝活動を一層強化してまいります。署名の拡散によりしくお願いいたします。